

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ゆうあい (昭和)	評価実施年月日	平成20年10月
評価実施構成員氏名	伊藤 佐藤 瀬川 斉藤 村山 飯沼		
記録者氏名	伊藤 純恵	記録年月日	平成20年10月23日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>独自の理念を作り上げている。</p>	○	<p>施設開放やボランティア等と交流し、その人らしく暮らせる様支えている。</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を共有し日々取り組んでいる。</p>	○	<p>入居者や家族の願いを尊重し、笑顔の環境作りができる様心がけている。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議、町内会の総会、公共施設等では、説明をして理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>家族からは、理解してもらっているが、地域の方々には、理解されていないと思われる。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>日常の挨拶や声掛けを気軽にしたり、商店の利用、他のグループホームとの交流をしている。</p>	○	<p>町内清掃への参加、コミュニティセンターの利用、総会への出席、夏祭りへの参加を呼びかけている。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>清掃活動、総会へ参加したり、ホームの夏祭りには、サークル活動の方々が来て参加したり、地域住民が参加してくれている。</p>	○	<p>地域交流を深め、グループホームへの理解を強めていきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>ボランティア受け入れや夏祭りへの参加、入浴開放デーへの呼びかけをしている。</p>	○	<p>ボランティアの方との食事會、入浴開放日をもうけて、地域貢献を図っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>評価後、できる範囲内で改善に取り組んでいる。</p>	○	職員全員が常に意識して改善に取り組んでいく必要がある。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1回、町内、地域包括センター、民生委員、家族の方々に報告し、話し合いを行い、意見をサービス向上に活かしている。</p>	○	地域住民の参加が少ない為、今後も理解と協力を呼びかけていく必要がある。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>会議、勉強会に出向いて、其の向上に取り組んでいるが、市町村担当者が出向いて来る事はない。</p>	○	今まで通り継続し、スキルアップに努める必要有り。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>管理者は学んでいるが、職員全員が学んでいない。</p>	○	勉強会等で、全員が学ぶ機会作りをしていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>入居者の訴え、身体観察に注意をして防止に努めている。</p>	○	左記の実施を継続する。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>十分な説明を行い、理解、納得をしていただいている。</p>	○	今までトラブルは1件も起きていない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	閉鎖型にせず、苦情処理係を設置し、運営者と共に運営推進会議等を通して話し合い、改善し反映に向けている。	○	傾聴し、その都度対応がなされている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	暮らしぶり、健康状態はインターネット、手作り新聞にて報告。金銭管理は出納帳の表示、職員の異動については、その都度報告をしている。	○	日々の変化については、記録を通して説明したり、暮らしのノートにて報告しているが、好評である。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会用紙に意見、不満、苦情を表わせる機会を設けて運営に反映させている。	○	運営推進会議出席時の意見や、面会時、口頭での質問や意見が多い。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者は、直接、意見や提案を聞く機会を設け、必要に応じて反映させている。	○	職員は管理者、運営者に自由に意見提案をしている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要な時間帯に柔軟な対応に努め、勤務調整を行っている。	○	ホーム長、管理者が主となり、職員協力の基で対応している。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者へのダメージ防止に配慮しながら、最小限に抑える努力はしている。	○	普段から他ユニットと行き来して馴染みになる様にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年間計画や月例の内部研修には、外部からの講師を招いている。外部研修にも交替で参加できるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>民介協や法人内外、医師会の勉強会を活用している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他ホームとの合同の勉強会をしたり、運営推進会議や関連会議に参加し、情報収集や意見交換を行っている。</p>	<p>○</p> <p>近隣のグループホームとの交流。研修参加時の交流。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>有給利用のリフレッシュ、本人希望の移動、悩みの傾聴を図り、ストレスの軽減に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>個別に対応している。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>努めている。</p>	<p>努力、実績、勤務状況を把握し評価している。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談に対応し、その都度支援の見極めをした対応に努めている。	○	
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に利用者や家族と十分に面談を行い、見学した後に入居。入居後も利用者が馴染める様、家族と相談しながら工夫している。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	個々のケアプランに基づいて、長く共に過ごしあえる関係作りをしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族と共に本人を支えていく関係を築いている。	○	
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の都合の良いときに面会や外出をしてコミュニケーションを図っていただくようにしている。	○	
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	支援に努めているが、レベルの低下や家族の都合もあり、できなくなってきた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関わり合いの一環として、毎日、体操、合唱を行っている。	○	年間行事として、お正月、花見、お祭り、運動会、クリスマス会、誕生会などを一緒に楽しんでいる。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	つきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ライフストーリーの情報を生かしながら、日々の言動や表情に気づきながら汲み取り、本人本位に検討している。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ライフストーリーを参考にし、コミュニケーションを取りながら、極力、本人の意向を取り入れている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の現状をスタッフ間で意見を出し合い、把握する様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族や利用者本人の思いや意向を取り入れ、職員が意見を出し合いながら作成されている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的に3ヶ月に1度の見直し実施、特変や状態変化があった場合、本人家族、主治医、関係者と話し合い、新たな計画作成をしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院介助、外出の付き添い等の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	協力しながら支援している。	○	
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	支援はしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	月に2回、2週間に1度、専任の往診の医師がみえている。24時間体制で、何かあった時は、相談、往診が受けられるよう連携体制をとっている。	○	医療連携で訪看の健康管理、歯科医往診の口腔ケアも2W/1回行われている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医の受診の支援は、現在の所受けていない。	○	専門医との連携を図り、職員が相談したり、利用者が診断や治療を受けられるよう支援していきたい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に1度、訪問介護を受けている。相談にのっていただいたり、適切なアドバイスをうけたりしている。	○	これからも、利用者の健康管理など連携をとっていきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ケアワーカーの方と連絡を密にとったり、情報交換などを行い、退院できる体制を整え、連携をとっている。	○	左記に同じ。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	指針を作成し、同意書が作られ、家族と方針が共有できる体制になっている。	○	
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医療と連携を図りながら行っている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住替えによるダメージを防ぐことに努 めている。	家族やご本人との十分な話し合いをしてから進めている。	○	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる ような言葉かけや対応、記録等の個人情報 の取扱いをしていない。	配慮するよう心がけている。	○	
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている。	常に本人の意思を確認している。		左記に同じ。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、その 日をどのように過ごしたいか、希望にそっ て支援している。	希望にそって支援できている時とそうでない時がある。(職員側の都合ではなく、他入 居者の都合で)	○	毎日の流れが決まり気味なので、一人ひとりのペースを考えるべきだと思 います。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができ るように支援し、理容・美容は本人の望む店 に行けるように努めている。	訪問美容と本人希望の店に送迎している。	○	今まで行きつけの所があれば、そちらのお店に行けるようにしている。これ からもうそうしたいと思っている。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員がその人に合わせて、一緒に準備や食 事、片付けをしている。	盛り合わせや食器拭きなど、利用者の得意な事を楽しみながら支援されている。	○	食事の準備では、時間に追われ気味で利用者と一緒にとはなかなか いないので、もう少し余裕をもっとりかかれば良いと思います。(レ ベル低下、食中毒問題等で一緒にできる事が少なくなっている。)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	体調にかかわる物や危険な物以外は本人の希望に沿い、提供している。	○	これからも、本人の嗜好の支援をしていきたいと考えている。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	自尊心を傷つけないよう配慮した介助を行っている。	○	なるべくおむつ等の使用をへらし排泄を支援していく。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴する曜日などは決まっているが、時間は本人の希望を優先している。	○	入浴に時間をとられてしまい、なかなか自由に入浴を楽しんでもらう事ができず、今後検討したい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣を大切にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食器拭き、掃除等の役割や囲碁、書道等の趣味を日常の暮らしに取り入れ、楽しみや気晴らしができるよう支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一部の方には実施しているが、全員はしていない。(本人と家族の希望と話し合いで実施)		お金を口に入れたりする利用者もいる為、周囲にも配慮が必要である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	通院への付き添いや車椅子、歩行困難な利用者へも出掛ける支援はできているが、利用者の気分に応じて、すぐの外出はできない時もある。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	花見や公園散策、外食など支援している。	○	これからも色々な場所へ外出支援していきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御家族に電話をかけたい時は、自由にしてもらっている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	誰もが自由に訪問できるようにしている。	○	これからも家族などがいつでも訪問できるようにしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	取り組んでいる。全職員が声をかけあって利用者の行動を把握し、外出する行動がある時は一緒に出掛けたり、声がけ見守りをして鍵をかけないケアをしている。		全職員が声を掛け合って利用者の行動を把握して、外出する行動がある時は、一緒に出掛けたり、声がけ見守りをしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	危険性がない事を把握して見守り声がけをしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	歩行の悪い方の為に、途中に椅子を設置したり配慮をしている。(物品の確認を常に行っている。)		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故が発生した場合の対応の仕方など取り組みをしている。	○	日々の情報を共有し、利用者の行動、変化に気づく様にしている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的に職員は訓練を行っていないが、施設内の年間研修で消防協力のもとで行っている。	○	定期的に職員すべてが訓練を行ってほしい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。			
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	話し合いをしている。	○	利用者と家族と管理者で話し合っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の身体観察などに気を配り、主治医との連携をとっている。		排泄、顔色、行動、摂取量、訴えに常に気配りしている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルなどを見て、個人の薬の内容を把握し、主治医からの情報など得た事を共有し、変化などに気を付けている。		薬剤師からの指導も受けている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分量や食事の工夫などを行っている。		主治医、訪看に相談し、利用者一人ひとりの排便コントロールを的確に行っている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	定期的に歯科衛生士の指導を受けている。		毎食後、職員が声掛けや手をかけて行っている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量、食事を個別記録し、全職員が摂取量に気配りし情報を共有している。利用者一人ひとりの嗜好や状態に応じて調理方法を工夫し提供しながら、体重の増減にも気配りしている。専門家による内部研修が実施されていない。		民介協研修にて専門家による研修を受け、量や栄養バランスに気配りしているが、内部研修も実施したい。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗い、清掃に気配りをしている。		職員が媒介主にならない様に特に気をつけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	買い物等、日付け、鮮度を確認して買う。	○	台所、調理器具の衛生管理の徹底、手洗いをこまめにする。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりを広く必要以外の物は置かない。履物等の整理。外玄関には季節の花など工夫。	○	利用者さんの転倒、事故を未然にするため、椅子、手すり、足元の安全を。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	四季、行事に応じた飾り付けをしている。音、光、温度、湿度、臭いを配慮しながら、生活を感じられるようにしている。手すりでも安全性にも配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間を広く、季節感をとり入れて、気軽に楽しめる空間にしている。		レクリエーション、趣味を通して自立し活動できる工夫。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者と家族が相談して好みのもので使いやすく居心地良く暮らせるようまかせてある。	○	レベルに合わせて安全性、危険性を考慮していく必要がある。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	季節、気温に応じて換気に気をつける。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	気軽に体力作りできる工夫をしている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	スタッフの連携をとり、計画作りに工夫している。	○	家族とコミュニケーションをとり、利用者の気持ちを取り入れていく工夫をしていきたい。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外出、日光浴等が安心してできるよう手すりの設置、椅子の配置。目で楽しめる季節の花、畑作りの工夫をしている。	○	利用者さんと一緒にとり組める花壇作り、野菜作りや、外でレクリエーションもできる空間を作りたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>家族や本人と話し合い、意向をきき、可能な限り希望にそうようになっている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>数日に一日程度、例えば、入浴のない日は、一緒に座って話をしたり、季節によっては、公園に散歩に行ったり、紅葉を見に行ったりしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>個々の必要に応じて、食事の時間をずらしたり、レクへの参加も強制することもなく、一人ひとりの意思、ペースを尊重している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>簡単な業務を職員と一緒にやってもらったり、定期的な作業を担当してもらって、自信を持ち、前向きに生活できるようにしている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>希望に応じて職員が同行したり、家族の協力を得て外出できている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>毎日、バイタルチェックし、食事量、水分摂取量、排泄の回数、睡眠の状況など記録し、管理している。定期的な往診、訪問看護で適切な助言など受けている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>入居者が不安になっている時は、話を聞き、原因をとりぞくようになっている。日常の心身の変化に早目に対処している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>家族が気がねなく、色々な事を話せる雰囲気ができており、要望、相談に応じ、その都度、理解納得していただいている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>近隣の施設などに声がけしている。定期的にボランティア。訪問がある。知人等の面会もある。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>近隣の施設、グループホーム、町内会などへの声かけ、呼びかけはしている。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>常に介護技術、其の向上、入居者への気づきに努め、職員同士も声をかけ合い協力し合っている。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>入居者の笑顔や穏やかな表情から、又、会話のできる入居者は、職員と冗談を言ったり、度に「ありがとう」などの言葉をいただいていることから、満足されていると思います。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>面会に来られるほとんどのご家族から、感謝やねぎらいの言葉をいただいている事から、おおむね満足されていると思います。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)